

平和を願う写真120点を展示

江成常夫氏作品「被爆—ヒロシマ・ナガサキ」より

江成常夫氏作品「被爆—ヒロシマ・ナガサキ」の展示をしますのでお知らせします。展示とともに関連イベントも行います。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により日時や内容等に変更が生じる場合があります。

1 日時

令和4年7月30日（土）～8月21日（日）

午前10時～午後6時 水曜休館

2 場所（会場）

相模原市民ギャラリー

（相模原市中央区相模原1-1-3セレオ相模原4階
相模原駅直結）



核廃絶のモニュメント・原爆ドーム

（旧広島県産業奨励館）（160m）

4 内容

令和元年度に本市に寄贈された江成常夫氏（写真家・本市出身および在住）の「被爆—ヒロシマ・ナガサキ」全120点を展示します。生涯を通じ、一貫して「負の昭和」を撮り続けてきた写真家の集大成とも言える作品であり、世界で唯一、原爆の被害を受けた私たちにとって大きな意味をもつものです。また、本作は日本人作家として初めてテキサス大学付属歴史博物館ブリスコー・センターにそのデジタルデータがアーカイブされ、国際的な評価も受けています。観覧無料。

5 関連イベント

（1）江成常夫氏によるトーク（作家本人に作品のことについて語っていただきます）

日時：令和4年8月6日（土）午後2時～午後3時30分

会場：相模原市民ギャラリー会議室

定員：30名

申込：相模原市民ギャラリーへお電話ください（7月16日より申し込み開始。先着順）

※後日、記録映像をオンラインおよび会場内でも公開します。

（2）対談映像上映

美術史家・東京藝術大学名誉教授の伊藤俊治氏と江成氏による対談の映像をオンラインおよび会場内で公開します。詳細は相模原市民ギャラリーのHPをご覧ください。

(URL) <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kankou/bunka/1022300/gallery/index.html>

問合せ先

相模原市民ギャラリー

直通電話 042-776-1262

令和4年度相模原市収蔵美術品展

江成 常夫

被爆

ヒロシマ・ナガサキ

2022. 7. 30 sat.— 8. 21 sun.

相模原市民ギャラリー展示室

開館時間 | 10:00—18:00

休館日 | 毎週水曜日 観覧料 | 無料

主催 | 相模原市 (相模原市民ギャラリー)

後援 | 相模経済新聞社、株式会社タウンニュース相模原支社、エフエムさがみ (FM HOT839)

協力 | 株式会社ニコイメーキングジャパン、株式会社写真弘社、株式会社フレームマン、
フォトシティさがみはらサポーターズクラブ

江成常夫 被爆 ヒロシマ・ナガサキ

戦争花嫁、日本人戦争孤児、太平洋に浮かぶ島々の戦跡―。生涯を通じ、常に「戦争」ととらえ続けている写真家・江成常夫。江成の太平洋戦争を巡る仕事には「声なき声を伝える」という作家の姿勢が通底しています。江成は写真を通して、大きな歴史の流れに埋もれた個人史、移り変わる風景に潜む犠牲者たちの魂を浮かび上がらせてきました。

人類史上初の、そして唯一実戦で行われたヒロシマとナガサキへの原爆投下について、江成は撮影を続けながらも熟慮を重ね、作品として発表するまでに長い年月をかけてきました。それは、他者の死を扱うことへの葛藤であり、写真家が真の意味で被写体に寄り添うための対話だったと言えるでしょう。

そうして長い時間をかけて編まれた写真は、2019年に写真集『被爆 ヒロシマ・ナガサキ いのちの証』（小学館）として発表され、そこに収められた作品のうち120点が令和元年、本市に寄贈されました。

それらの作品は、広島平和記念資料館と長崎原爆資料館が所蔵する被爆者たちの遺品、爆心地とその周辺に残る遺構を被写体に構成されています。江成の写真は、被写体の微に入り細を穿ち、時にはそのスケールを変え、モノの細部に宿る「声なき声」に迫ります。

本展では、江成が長年にわたる熟慮の末に辿り着いた「原爆」をめぐる写真を展示します。遺品や遺構といった原爆の爪痕に宿る声を通し、戦後77年を迎えた今日にいま一度、わたしたちが生きる現代の「平和」について問い直す機会となれば幸いです。

関連イベント

本展の開催にあたり、以下のイベントを実施いたします。

○ギャラリートーク

江成常夫氏に自身の作品について語っていただきます。なお、トークの様子を撮影した映像を後日オンライン上でも公開いたします。

日時 | 8月6日(日) 14:00~15:30

会場 | 相模原市民ギャラリー会議室

定員 | 30名

申込 | 相模原市民ギャラリーへお電話下さい(7月16日申込開始。先着順)

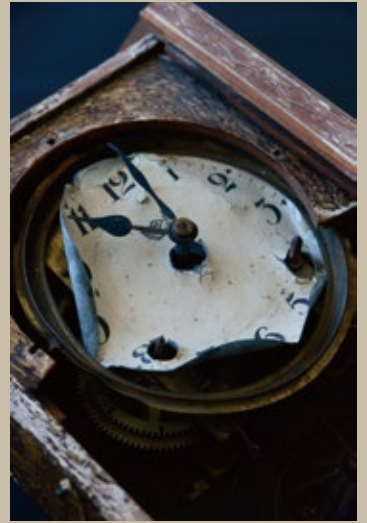
○対談映像上映

美術史家の伊藤俊治氏と江成常夫氏による本作を巡る対談を撮影した映像を会場およびオンライン上で公開します。

詳細は相模原市民ギャラリーウェブページにてお知らせいたします。

以下のURLまたはQRコードよりアクセスください。

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kankou/bunka/1022300/gallery/index.html>



上段左《浦上天主堂の焼け跡で見つかった被爆マリア像(300m)》2019 / 上段右《原爆炸裂の時を刻んだままの柱時計(2.8km)》2016 / 中段左《玄関先で被爆死した山根富枝(4)ちゃんのスカート(1.35km)》2018 / 中段右《被爆した高橋昭博(14)さんの異形の爪(1.4km)》2018 / 下段《勤労動員中、被爆した大本利子さんのブラウス(1.7km)》表《惨禍の記憶を告げる原爆ドーム(旧広島県産業奨励館)(160m)》2016

